

# 2014年度決算説明会

---

**株式会社 やまねメディカル**

2015年5月

# 本日のプログラム

I. 2014年度決算概要

II. 2014年度の業績分析と  
2015年度の事業戦略

III. 2015年度業績予想と配当計画

IV. 資本政策と市場対応

# I . 2014年度決算概要

# (1) 2014年度損益概要

(単位:百万円)

	2013年度 (第12期) (個別)	2014年度 (第13期) (個別)	対前期比		2014年度 (第13期) (連結)
			増 減	増減率	
営業収入	5,275	6,440	1,165	122.1%	6,477
営業利益	51	△1,136	△1,187	—	△1,259
経常利益	24	△1,167	△1,191	—	△1,290
当期純利益	△77	△1,075	△998	—	△1,049

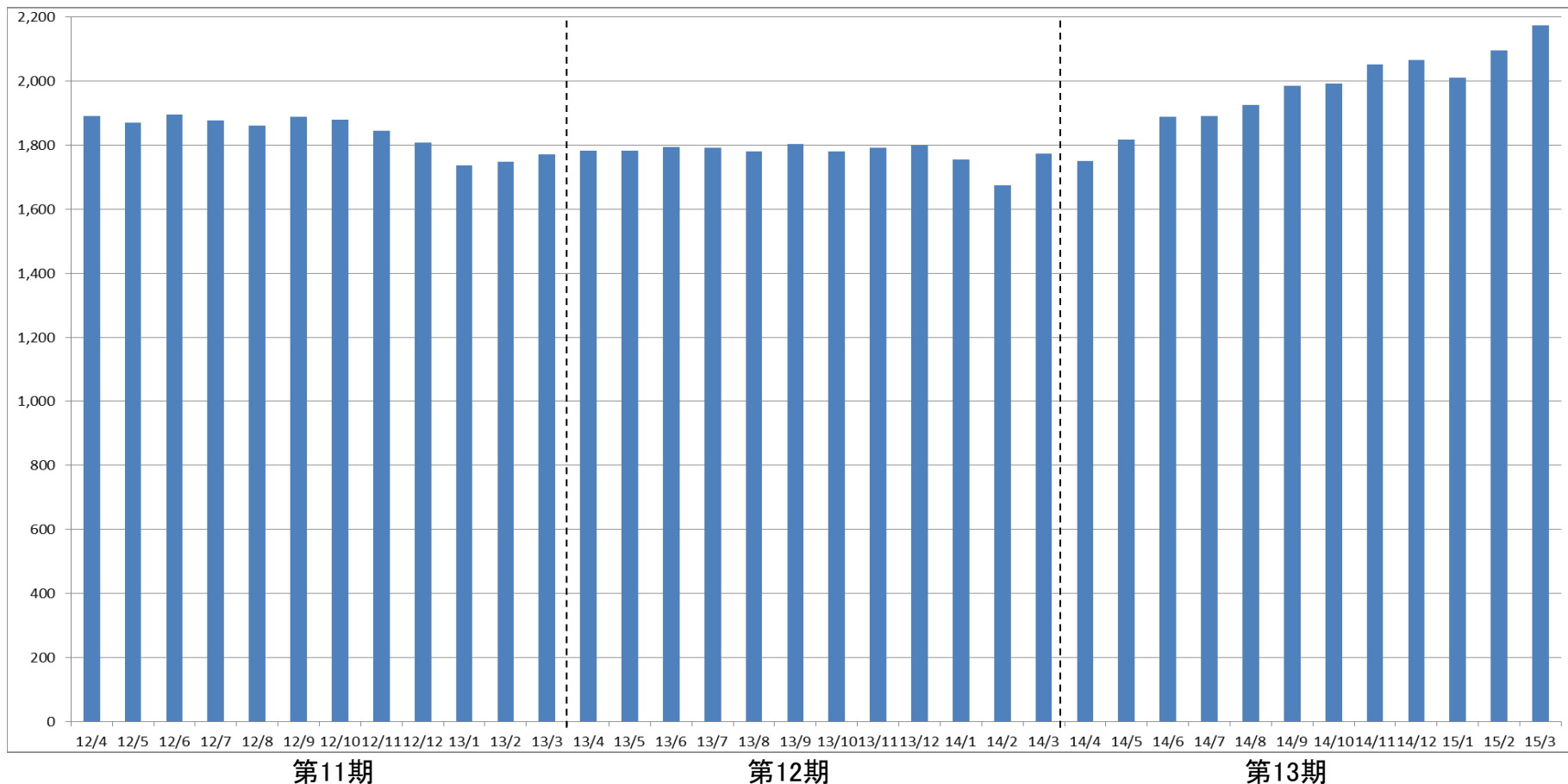
① 営業収入は、総合ケアセンターの32箇所増設に伴い増収。



- ② 営業利益、経常利益、当期純利益ともに、以下の要因を主因として大幅損失を計上。
- (a) 通所介護の利用者数の伸びが計画比未達となったこと。
  - (b) 総合ケアセンターの集中的な新規開設に伴う初期投資コストが嵩んだこと。
  - (c) 各種新事業の開発、事業の運営改革に必要な要員の投入で販管費が膨張したこと。

## (2) 稼働人数(1日あたり利用者総数)の推移

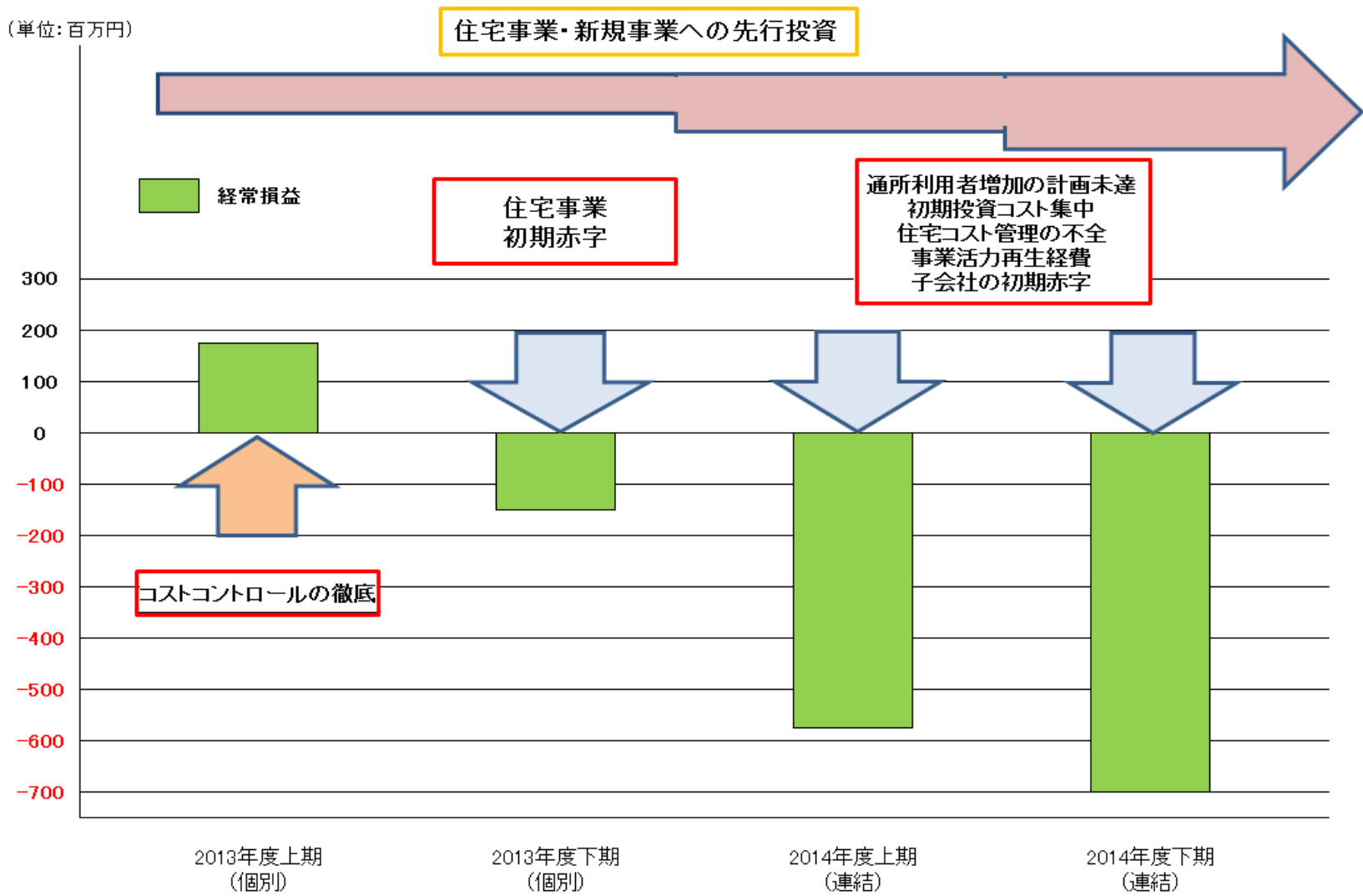
(人/日)



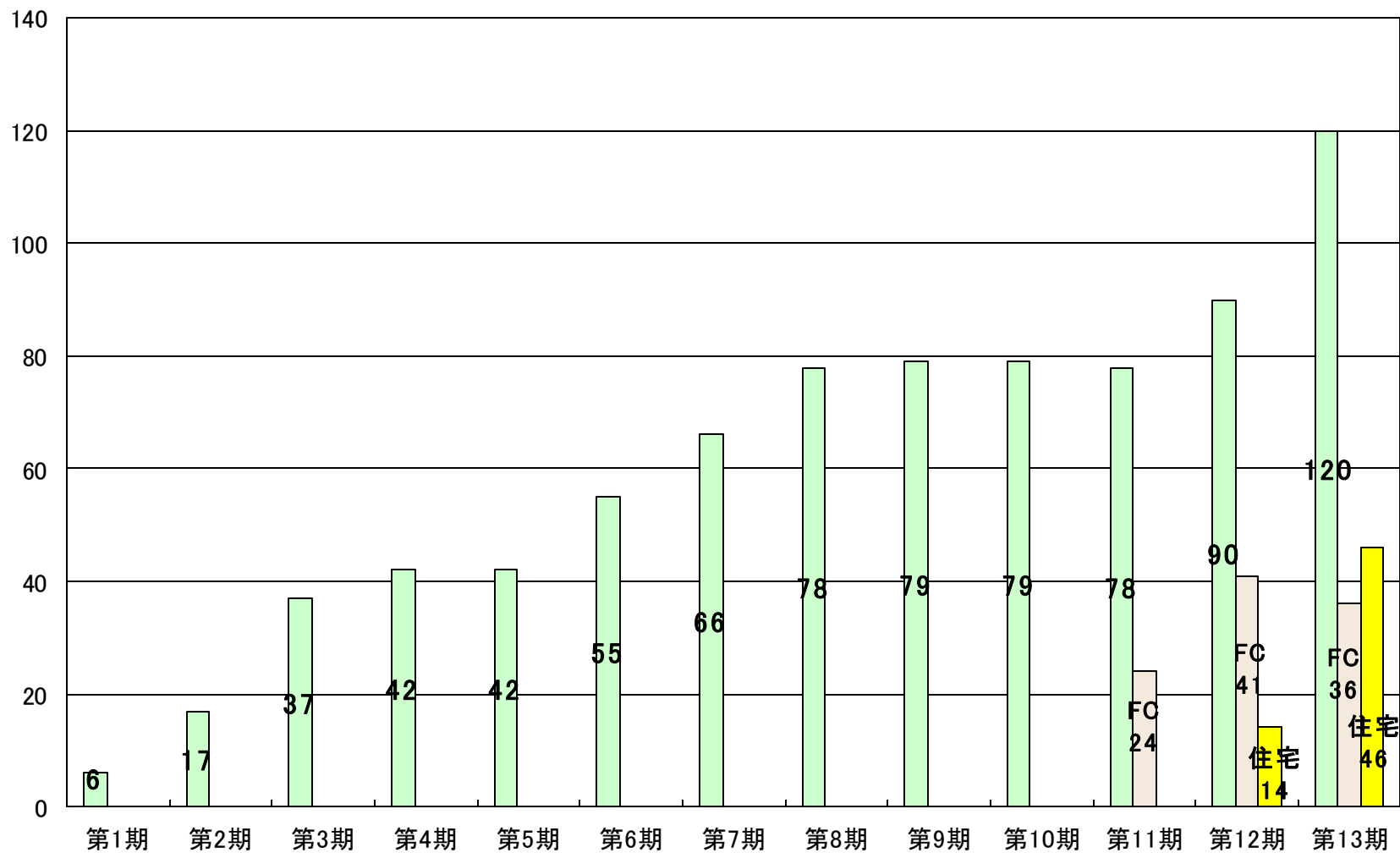
- ① 総合ケアセンターの増設に伴い、通所介護利用者数は増加トレンド。
- ② ただし、第13期の増加は計画未達。

# (3) 経常利益の推移

(単位: 百万円)



## (4) 施設数の推移



## (5) 比較貸借対照表(個別)

(単位:百万円)

	2014年3月	2015年3月	増減		2014年3月	2015年3月	増減
現金預金	1,703	824	△879	短期金融負債	860	1,330	470
営業未収入金	901	1,105	204	その他	514	791	277
その他	249	258	9	流動負債計	1,374	2,121	747
流動資産計	2,853	2,187	△666	社債	337	174	△163
有形固定資産計	846	814	△32	長期借入金	1,130	1,436	306
無形固定資産計	11	19	8	その他	196	241	44
投資その他資産計	657	1,195	538	固定負債計	1,663	1,851	188
固定資産計	1,514	2,028	514	負債合計	3,037	3,972	935
				資本金	304	304	0
				剰余金等	1,025	△63	△1,088
				株主資本計	1,329	241	△1,088
				純資産合計	1,330	243	△1,088
資産合計	4,367	4,215	△152	負債純資産合計	4,367	4,215	△152



## (6) キャッシュ・フロー(連結)

(単位:百万円)

	2014年度(第13期)
<b>I 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△1,113</b>
税引前純利益(税金等調整前)	△1,338
減価償却費等	90
売上債権の増減額	△231
未払金の増減額	169
法人税等の支払額	7
その他	190
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△317</b>
(フリー・キャッシュ・フロー)	△1,430
<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>589</b>
<b>IV 現金及び現金同等物の増減額</b>	<b>△841</b>
<b>V 現金及び現金同等物の期首残高</b>	<b>1,719</b>
<b>VI 現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>878</b>

## Ⅱ. 2014年度の業績分析と 2015年度の事業戦略

# (1) 前期大減益の原因分析

- (1) デイの利用者増加が計画を大きく下回る
- (2) 利用者増加のテコ入れのための経費膨張
- (3) 4月報酬改定に備えた先行投資による経費膨張
- (4) コストコントロール不全による全体の経費膨張
- (5) 新施設設の立ち上げ不調による大きな初期赤字
- (6) 子会社事業を含む新事業の初期赤字が拡大

## (2) 報酬改定の当社事業への影響について

- (1) 通常規模以上の通所介護介護報酬は約5%減
- (2) 地域区分変更による影響で約1%増
- (3) 機能訓練等加算増加分の売上増
- (4) 人員配置基準の変更
- (5) 小規模施設報酬の大きな引き下げ



- ① 運営次第で減益を回避可能
- ② 2006年から約10年続いた小規模化優遇(介護報酬, 施設運営)政策に終止符→競争環境悪化に歯止め？

# 参考) 政策動向と市場環境

- 地域包括ケアシステムの整備推進
- 医療から介護へ、施設介護から在宅介護へ、の基本方針
- 施設介護総量規制の維持と高齢者住宅整備の推進
- 通所介護は給付の重点化(中重度者と認知症対応強化)
- 景気浮揚による採用環境の悪化
- 特に関東と東日本での建築費用高騰

## (3) 今期の事業戦略

- (1) 通所介護事業の立て直し
- (2) 抜本的な経費削減
- (3) 黒字転換急ぐ(7月目標)
- (4) さらなる業容拡大を目指す

## (4) 通所介護事業の立て直し

### (1) 利用者増の加速

- ① 約1年かけた報酬改定への対策と準備
- ② サービス改善等の総合的な業績改善活動
- ③ 加算への積極的な取り組み
- ④ 営業強化

### (2) 人員の適正配置

### (3) 統廃合推進(10施設程度を予定)

## (5) 抜本的な経費削減

- (1) 報酬改定への準備完了
- (2) デイ再生のための投資完了
- (3) 人員体制の変更(職員シフトの組換え)推進
- (4) 施設統廃合の加速
- (5) コストコントロールと質素儉約の徹底



## (6) 事業の多角化

### (1) 訪問事業

訪問介護・訪問看護・居宅支援事業等推進

### (2) フード事業

上期中の黒字化を計画

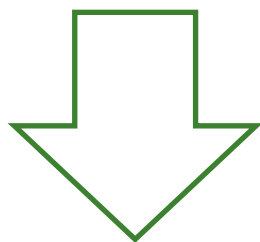
### (3) 建築事業

介護施設建設、リフォーム事業等本格開始

### (4) その他事業

## (7) 成長戦略

- (1) 通所事業の立て直し
- (2) 今期17施設の増設計画
- (3) 事業多角化(訪問事業,子会社事業)推進



今期売上目標100億(約50%の増収)

# Ⅲ. 2015年度業績予想と 配当計画

# (1) 今期の見通し

- (1) 利用者増加の現トレンド等から、約30%増収の見込み
- (2) 増収と経費の削減により、通期黒字確保の見込み
- (3) 既存の通所介護事業は、加算への取り組み、人員配置適正化、統廃合の推進等により増益の見込み
- (4) 新設施設の初期赤字は運営スキルの向上により縮小傾向
- (5) 子会社は黒字化の見込み

## (2) 2015年度業績予想

(単価:百万円)

	2014年度(第13期)		2015年度(第14期)	
		前年比		前年比
営業収入	6,477	—	8,400	129.7%
営業利益	△1,259	—	385	—
経常利益	△1,290	—	350	—
当期純利益	△1,049	—	185	—



- ① 過年度の先行投資の収益寄与により、増収増益を予想
- ② 抜本的なコスト改革により、黒字化を加速させる

# IV. 資本政策と市場対応

# (1) 前期の資本政策と市場対応

1) 無配

2) 資本政策と市場対応に

特記事項はありません

## (2) 今期の資本政策と市場対応

1) 無配の予定

2) 資本政策と市場対応に 現在において  
特記事項はありません



- 本資料は、我が国において一般に公正妥当と認められた会計原則に基づき作成された2014年度の業績、並びに2015年度の予想業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、今後予告なしに変更されることがあります。本資料は、2015年5月15日現在のデータに基づき作成されております。なお、本資料で使用するデータ及び表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。
- 本資料は将来の予測等に関する情報を含む場合がありますが、これらの情報はあくまで当社の予測であり、その時々状況により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改訂する義務を負いかねますのでご了承ください。
- 本資料のいかなる部分も一切の権利は株式会社やまねメディカルに帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。